

「スポーツを文化に！」とは、NBDL所属のプロバスケットボールチーム「東京エクセレンス」のGM・辻秀一さん。本職はスポーツドクターだ。人気バスケット漫画を教本にメンタルトレーニング法を確立した『スラムダンク勝利学』を著し、子どもにバスケットやクラブチーム「エクセレンス」を創設。その後、日本バスケットボール協会がプロ化を提唱し、新規参入チームを募集したので、辻さんは「大きな思い」を胸に名乗りを上げた。そうして、「東京エクセレンス」は2013年に誕生した。目下、リーグ戦では首位をいく。

1月19日、リーグ戦第10節。最下位のチームを相手に大量点を奪い、勝利を手中に収めた後半も攻撃の手を緩めない。勝ち負け以上に大事にしているものがあるからだ。それは、「元気、感動、仲間、成長」というチームの理念である。「スポーツをする、観る、話す、支えること」で、その理念を体感してほしい」と辻さん。「日本は、体育や部活、学校を卒業したら、観る。しかスポーツとの触れ合いがありません。また勝敗だけの「文明」レベルです。それを海外のように身近な「文化」に変えたい。生活のそばにスポーツがあることで、日本のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を豊かに。「東京エクセレンス」は、その先鋒です」。

東京エクセレンスの挑戦!

みんなで作るプロスポーツ・チーム。

プロスポーツチームは企業が持つものと思いませんか? 「東京エクセレンス」は違います。
「元気、感動、仲間、成長」を与えてくれる、みんなのバスケットボールチームなのです!

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

特集

未来をひらく
NPOのアイデア集

Ideas to Build the Future!



日本ではプロスポーツチームを所有するのは企業。一方、「東京エクセレンス」の運営母体は、『カルティベイティブ・スポーツクラブ』という社団法人。企業名の宣伝やお金儲けでなく、関わる人の人生を豊かにするための市民みんなのチームなのだ。関わり方はさまざま。試合の観戦、ファンとしての寄付もチームを支える大きな力。イケメンの石田選手がコートを駆け回る。身長2メートル11センチのジョー選手がダンクを決める。試合前に、ボランテアが並べた椅子席から声援が飛び交う……。チームの理念が共有された先には、新しい文化が待ち受けている。

1月19日、「東京エクセレンス」のホーム、東京都板橋区の小豆沢体育館でリーグ後半戦が始まった！

TOKYO EXCELLENCE



エクセルシスの5つのアイデア!

Key Word

企業に“おんぶにだっこ”ではない、
自立したチームを目指す「東京エクセルシス」。
そのためのアイデアもユニークです!

欧米ではスポーツは医療、芸術、コミュニケーション、
教育と捉えられ、身近な文化として愛されています。
日本では、スポーツは体育。古い概念を変えるために、
「東京エクセルシス」を創設しました。

子どもたちに伝えたいのは、「あきらめない」こと。
バスケットを続けていると辛いことも経験しますが、
それをぐっと我慢した人には、最後に必ず、
花が咲くということを伝えていきたいです!



7 試合は98対52で圧勝。MVPに輝いた齋藤選手が、ファンに感謝の言葉を伝えた。8 ケガをして入院治療中の西山達哉選手にファンから寄せ書きが贈られ、石田選手が受け取った。9 東海大学から新卒で入団した狩野祐介選手。10 チームスタッフとボランティアが勢揃い。11 マイケル・オルソンヘッドコーチ。



Idea **1** Local Team

市民チーム

ファンが支えるチーム経営。

NBDLからNBLへステップアップするには、年間の運営資金が1.5億~2億円は必要。社団法人として運営する「東京エクセルシス」の資金は、主にチケット販売収入とスポンサー収入、ファン会費で賄われているが、辻さんが期待するのは、「スポーツは文化」という理念に共感するファンからの支援。ホームページで会員となり、年間1000円から応援できる。



1 「東京エクセルシス」のGM・辻秀一さん。2 「丸の内朝大学」は講座を。3 ハーフタイムには協定を結ぶ坂本健板橋区長と辻さんのミニ対談。4 「グリーンバード三田芝浦」の清掃活動に参加。5 序盤から有利に試合を進める「東京エクセルシス」。フリースロで追加点! 6 試合後、選手全員によるサイン会が開催。



子どもの頃、地元・ポートランドのチームの練習を父親と見学し、リバウンドボールを選手に戻したことが思い出に残っています。日本の子どもたちも、「東京エクセルシス」の試合を観に来てほしいです。

Idea **2** Volunteer

ボランティア

ボランティアはチームの一員。

「東京エクセルシス」は、ホームゲーム開催時（板橋、大田、渋谷、港区など）に、試合の準備や運営を手伝ってくれるボランティアを募集している。スポーツを見るだけでなく、「支える」というかたちで参加。「ボランティアはチームの一員」と辻さんが言うように、ゲームと一緒につくることで、「元気、感動、仲間、成長」を体験できる!





18

試合には用事がなければ必ず行ってます。家から近いし。携帯の待ち受けは狩野選手。将来は、「東京エクセレンス」に入団して、リーグ優勝したいです！



19

18 板橋区立板橋第四小学校に、辻さんと選手4名が訪れて一日先生を務め、一緒に給食も食べた。19 「ジュニア・バスケットボールアカデミー」に参加している板橋区の依田匡史くん。20 「アカデミー&クリニック」で子どもたちにバスケットを教える長澤健司選手。21 地元・板橋の子どもたちも熱い視線でゲームを観戦。



21

20

Idea 3 Social

ソーシャル

みんなのアイデアでチームづくり。

2013年の夏、辻さんは「丸の内朝大学」で、スポーツ球団プロデュースクラスの授業を全8回にわたって開催した。プロバスケットチームを成功させるための課題やアイデアを、チームの練習も見学しながら話し合った。また、クラウドファンディングで運営資金を募るなど、ソーシャルツールを活用したファン獲得にも挑戦している。



12

ホームゲームは勝ちたいという気持ちが強くなりますね。大きな声援でモチベーションも上がりますし。いつも応援してくださるファンの方々に感謝しながら、試合を見られた方が元気になるよう頑張ります！

Idea 4 Children

子ども

“体育”ではないスポーツを。

「学校で教わる“体育”ではなく、文化としてのスポーツを伝えるために実施しています」と辻さんが言う、子ども向けの「バスケットボールクリニック（学校対象）&アカデミー（週1回のバスケ塾）」。「東京エクセレンス」の選手が指導するバスケの練習を通じて、「元氣、感動、仲間、成長」の大切さを学ぶことができる。都内各所の学校と、板橋区の体育館で実施中！



13

12 キャプテンの石田剛規選手。13 練習場に近い『カジュアルハンパス』の中島斗三之さんと光恵さん。石田選手がたまに来ます。先日、初めてのバスケ観戦でエキサイトしました！14 板橋区祭りに参加。15 マーカリー・フリソン選手の迫力あるシュート。16 イベントで子どもとバスケを楽しむ齋藤豊選手。17 勝利を喜ぶ選手。



14

Idea 5 Local

地域

地域とつながり、全国へ！

拠点を置く地域に支えられながら、全国区への飛躍を目指す「東京エクセレンス」。都内では、主に板橋区や港区、渋谷区で試合を行うことが多く、それらの地域とのつながりを大事にしている。板橋区では、選手が夏祭りに参加したり、小学校を訪問して子どもたちと触れ合ったり。選手やチームは、地域の子どもの憧れの存在になりつつある。



16

15

17

85

[東京都渋谷区]

スポーツを文化に！

一般社団法人
カルティベイティブ・スポーツクラブ

メンバーに聞きました

辻 秀一さん



Q アイデアの生まれる場所は？

A スポーツを見ているとき。勝ち負けより、「人の生き方とは？」「社会とは？」と考えながら見えています。

DATA 設立年/2012年 スタッフ数/5名
www.cultivative.jp